

第 1 8 回

宮 沢 賢 治 賞
イ ー ハ ト ー ブ 賞

2 0 0 8 年

主 催 花 卷 市

選 考 宮 沢 賢 治 学 会 イ ー ハ ト ー ブ セ ン タ ー

第18回 宮沢賢治賞・イーハトーブ賞

《宮沢賢治賞》

英国で刊行された『STRONG IN THE RAIN』（『雨ニモマケズ』）、青少年のための『英語で読み解く賢治の世界』で、長年賢治の詩、童話作品の研究・翻訳に取り組んだ努力と貢献に対して。

ロジャー・パルバース

《宮沢賢治賞奨励賞》

インターネットのサイトに『宮沢賢治の詩の世界』を立ち上げ「全詩一覧・草稿一覧」、詩稿の下書きなど、パソコンでの調査研究を可能にした先駆的な研究業績に対して。

浜垣 誠司

《イーハトーブ賞》

国連難民高等弁務官事務所ウガンダ、リラ事務所所長として、一瞬にして家族・財産を失ったケニアの難民の問題を積極的に粘り強く、献身的に解決した国際的な寄与に対して。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）
ウガンダ、カンパラ事務所 高嶋 由美子

《イーハトーブ賞奨励賞》

『原爆詩一八一人集』（日文、英文）において原爆被害を風化させまいとする三人の編者の協力的な企画・編集によって、核廃絶の願いと祈りの詩集を刊行した平和運動に対して。

長津功三良・鈴木比佐雄・山本十四尾=編

選考の経過および理由について

宮沢賢治学会イーハトーブセンター賞選考委員会

委員長 森 三紗

選考対象の推薦については、会員からの推薦と申し合わせによる選考委員会の推挙を受けて具体的な検討に入った。三次の選考会議を経て選考を終えた。

《宮沢賢治賞》

宮沢賢治賞については計33点を選考対象とした。

本賞のロジャー・パルバース氏は、来日した時に日本の詩人・作家のなかで最も美しく素晴らしい作品を書いた人物として知人から宮沢賢治を推薦された。『春と修羅』「ざしき童子の話」に感動して以来40年間、賢治の詩、童話を英語に翻訳し、劇作家として劇化も行い、紹介することに取り組んで来た。

英国で刊行された『STRONG IN THE RAIN』（『雨ニモマケズ』）においては、はじめに賢治の生涯を魅力的に紹介し、次に92の詩作品を本格的に翻訳し、巻末で註解を行った。また『英語で読み解く賢治の世界』では、青少年に向けて特色のある章立てと註解を行い、賢治の詩の英訳しがたい語句を分かり易く説明し賢治の詩の世界を読み解いた。長年の労苦と識見、取り組みの業績が高く評価された。

奨励賞の浜垣誠司氏は『宮沢賢治の詩の世界』（[mental sketches hyperlinked](#)）のサイトを立ち上げ、インターネット形式で即座に賢治の詩の世界を旅することを可能にし、賢治の生き方や作品を愛する人々が容易にアクセスし貴重な情報を得ることが出来るようにした。

また、ブログに作品紀行・関連本等を置き検索し双方向に交流を楽しむことが可能で、精神科医の人間の心を尊重する視座を生かしており、このサイトを開始して10年になるぼう大な時間と愛情を注ぎ時代の先端に行く調査と研究実績が認められた。

《イーハトーブ賞》

イーハトーブ賞については計18点を選考対象とした。

本賞については、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）ウガンダ、カンパラ事務所高嶋由美子氏が受賞した。国連難民高等弁務官事務所ウガンダ、リラ事務所所長を務め一瞬にして家族・財産を失ったケニアの難民の問題を解決するために命懸けで、親身に難民の立場になり、粘り強く積極的に他との交渉にあたり平和的な解決に努めた。宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の、厳しい状況にある人々のところに、「ジブンヲカンジョウニ入レズニ」「行ッテ」じかに実践し解決し理想郷を目指す精神を持って、ウガンダで活躍していることが認められた。

奨励賞は、『原爆詩一八一入集』（日文・英文）の刊行の三人の編者が受賞した。第二次世界大戦中に広島と長崎に原爆投下されてから60余年が過ぎ、戦争によってひき起こされた原爆の被害と惨劇を風化させまいとして長津功三良氏・鈴木比佐雄氏・山本十四尾氏が熱心に話し合い企画を立てた。被爆した詩人のみならず、企画に賛同した詩人たちへの呼びかけが実り核廃絶の願いと祈りの詩集を刊行したことが高く評価された。

受賞者略歴

ロジャー・パルバース (Roger Pulvers) 氏

1944年ニューヨーク生まれ。

作家、劇作家、演出家。現在東京工業大学世界文明センター長。

UCLAおよびハーバード大学大学院で学ぶ。ワルシャワ、パリに留学後、1967年に初来日。

1982年には映画「戦場のメリークリスマス」助監督を務め、2008年の映画「明日への遺言」の脚本を担当。

著書

『英語で読み解く賢治の世界』

『旅する帽子 小説ラフカディオ・ハーン』

翻訳書『英語で読む 銀河鉄道の夜』

『STRONG IN THE RAIN』(BLOODAXE BOOKS)

『英語で読み解く賢治の世界』(岩波ジュニア新書)

ロジャー・パルバース氏の業績について

『STRONG IN THE RAIN』(『雨ニモマケズ』)(BLOODAXE社2007年刊行)において、「雨ニモマケズ」の詩の冒頭を Strong in the rain... と翻訳された。今まで、賢治のこの詩の翻訳は数々行なわれ、否定語で始める訳が多く、原詩の雰囲気や伝わる適訳かどうかという意見があるが、本書の詳解によれば賢治は健康な丈夫な強い体を持つことを願望し、否定語で訳し始めると英語では賢治の祈りの精神が弱まり、Strongで始めた方がより深い宗教的な祈りの境地まで表現できると記述しており、個性的な翻訳である。

旧著の『英語で読む宮沢賢治詩集』(ちくま文庫)の50編に新たに40編を加え、旧訳も深化発展させ、註解により読者は賢治の詩の理解が可能になった。イギリスでも「著者は今世紀の天才を世界の読者に紹介している」と評されている。(岩波版ジュニア版「はじめに」)

『英語で読み解く賢治の世界』(岩波ジュニア新書2008年刊行)では、「永訣の朝」「風景とオルゴール」「春と修羅」序」を含め7編の詩を取り上げ、賢治の詩と翻訳した英詩を短く区切り、懇切丁寧に翻訳の妙味を披露し読みごたえがある。各章末でパルバース氏が翻訳した「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」「雪渡り」「虔十公園林」「ひかりの素足」に言及し、賢治と方言・ユーモア・自然現象・孤独・死・動物との関係・宗教について解説し、読者は賢治の生涯を辿ることが可能である。また著者は日本で初めて「銀河鉄道の夜」を英字新聞に連載、ちくま文庫版で改正を重ねてきた。著者の今日までの英語による翻訳への深い情熱と造詣と貢献が高く評価された。

【現住所】 〒211-0952

神奈川県川崎市幸区古市場1-50

【電話】03-5734-2285

浜垣 誠司（はまがき せいじ）氏

1960年11月21日 京都市生まれ

1985年3月 京都大学医学部卒業

京都大学医学部助手等を経て

2001年10月より 医療法人高木神経科医院 院長

専門は、精神医学

京都大学医学部非常勤講師

著書（いずれも共著）

『メンタルヘルスはどこへいくのか』（2002、批評社）

『リハビリテーションの森』（2008、かもがわ出版）

『被服と化粧の社会心理学』（1996年、北大路書房）

浜垣誠司氏の業績について

浜垣誠司氏は、宮沢賢治の作品を絵本や童話の本で知り、幼い頃から賢治の作品に慣れ親しんで来た。1999年の夏に花巻の宮沢賢治記念館、宮沢賢治学会イーハトーブ館を訪問し実体験をして、たいへん感動し賢治に関する表現活動をするため、Webサイトを立ち上げた。

サイトの中心は全詩一覧・草稿一覧で、特に「宮沢賢治全詩一覧」「『春と修羅』第一・第二・第三集関連草稿一覧」の草稿類一覧表からリンクされたすべての逐次形草稿のテキストを見ることができる。冒頭にブログを設置し、作品・賢治紀行・賢治関連本・賢治情報・イベント・月別過去の記事などメディアならではの宮沢賢治研究の可能性を追求している。

インターネットの持つ機能を最大限に活用し歌曲・石碑の部屋を設け、コンテンツに詩作のグラフ・推敲過程の動的表示・連作詩群の展望なども設け、インターネットで“新校本”を開いたことは画期的であり先駆的な研究実績が評価された。

【現住所】非公開

【電話】非公開

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

ウガンダ、カンパラ事務所 高嶋 由美子（たかしま ゆみこ）氏

1969年10月24日生まれ。

現職はUNHCRウガンダ、カンパラ事務所、上席フィールド・コーディネーター。

高嶋由美子氏の業績について

高嶋氏は紛争により一瞬にして家族や財産を失い、いのちの危機に瀕している難民を救うことに全力を尽くしている。国連難民高等弁務官（UNHCR）事務所所長ウガンダ、リラ事務所所長を30代の若さで務め7人の職員とともに協力し、積極的に根気強く献身的に、しかも冷静な判断力を持ち、指導力を発揮して問題を解決に努めた。

今年三月下旬に、ウガンダのケニア難民の一時避難所で、祖国に帰還をのぞむ人々の立場になり、人生を切り開くことができるように、粘り強く難民の意志や気持ちを尊重して、親身にただひたむきに耳を傾け続け決定ができるようにした。担当は3県40ヵ所のキャンプ。問題解決のため1カ月近く宿舎に戻れないときもある。ウガンダの国内避難民の約80万人の帰還に尽力した。

東京生まれで、英国エセックス大学で政治学を専攻し、帰国後に学習院大学大学院に入学して学者を目指したが、アフリカのルワンダの駐日大使から民族紛争による悲劇を聞き、人生を変えた。スーダン、東ティモール、タイ、ミャンマー、カブールでの勤務を経てウガンダ、リラでの勤めとなった。1999年東ティモールに派遣され難民を自宅に送り届け家族が涙で再会し、再出発していく姿に感動し、それ以来、人々が自立するのを傍らで支える共苦共感の姿勢は、まさに宮沢賢治精神をもったの解決であり難民問題解決の、国際的な貢献が認められた。

【連絡先】UNHCR駐日事務所

【電話】03-3499-2042

長津 功三良（ながつ こうざぶろう）氏

1934年9月2日生まれ。

広島舟入高校卒。三菱銀行（現三菱東京UFJ銀行）定年退職。郷里に戻る。

社会福祉法人美和苑理事

日本現代詩人会理事（西日本ゼミナール担当）

中四国詩人会 理事

広島県詩人協会 幹事

著書

『影たちの葬列』（2003年 幻棲舎） 第四回『陽』現代詩平和賞受賞

『影たちの墓碑銘』（2006年 幻棲舎） 第九回 小野十三郎賞受賞

鈴木 比佐雄（すずき ひさお）氏

1954年 7月9日 東京都荒川区南千住に生まれる。祖父や父は石炭屋を営んでいた。

1979年 法政大学文学部哲学科卒業

1987年 宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」の中に出てくる「石炭袋」を借りて、宮沢賢治のような自己の内面を見つめ世界の苦悩を汲みあげて詩作する詩人達の詩を「石炭袋」に溢れさせようと、個人誌「COAL SACK」（石炭袋）を創作する。詩の批評活動も開始する。

2006年 8月 個人詩誌「COAL SACK」を詩書の専門出版社として株式会社コーンサック社とする。代表取締役となり、詩集・詩論集などの製作を開始する。

2007年 8月6日の発行日で長津功三良・鈴木比佐雄・山本十四尾の選者で『原爆詩一八一人集』初版3000部を7月中旬に刊行し、全国で発売する。

12月に『原爆詩一八一人集』の英語版『Against Nuclear Weapons A Collection Poems by 181Poets』を刊行し、核保有国の日本大使や、カーター元大統領、ゴア元副大統領など世界の指導者や世界のジャーナリスト達に贈呈する。

著書

1981年 第一詩集『風と祈り』

1987年 第二詩集『常夜燈のブランコ』

1989年 第三詩集『打水』

1990年 第四詩集『火の記憶』

1993年 第一詩論集『詩的反復力』

1994年 第五詩集『呼び声』

1997年 第六詩集『木いちご地図』

第二詩論集『詩の原故郷へ』

2003年 第七詩集『日の跡』

2005年 第三詩論集『詩の降り注ぐ場所』

2006年 『長詩 リトルボーイ』

山本 十四尾(やまもと としお)氏

1935年6月7日 東京生まれ。

明治大学卒業。古河文学館に詩集など収蔵・展示されている。ボランティアで「詩の教室」を月1回開いて70回に及んでいる。詩人に対する賞として第2回モデラート賞受賞。

日本現代詩人会常任理事・日本文学家協会会員・茨城県詩人協会名誉会員・日本詩人クラブ会員。詩誌『墓地』『衣』発行人。文芸誌「コールサック」顧問。2008年国民文化祭いばらぎ「現代詩」最終選考委員・「1ページの絵本」選考委員。下野新聞社詩の選者。

著書

詩集『葬花』(横浜詩人会賞)・『風呂敷』(茨城文学賞)・『雷道』(第17回現代詩人賞・茨城新聞社賞)・詩集は他に『舞雪』『水の充実』『鬼捜し』など。

長津 功三良氏・鈴木 比佐雄氏・山本十四尾氏の業績について

1945(昭和20)年8月6日広島、8月9日長崎に原爆投下されてから60年経た3年前、被害者が高齢化しつつあり被爆の惨状を語り継ぐことが減り風化しているという問題意識と危機感が詩人たちを動かした。長津功三良・鈴木比佐雄・山本十四尾の三氏は刊行の企画を話しあった。広島生まれの故浜田知章の、15年前の「平和の哲学を発信せよ。」との教を誠実に心に刻み刊行を考え決意したのであった。亡くなられた方々の詩を冒頭に掲載し、全国の心ある詩人に呼びかけ参加してもらうことを企画した。

長津功三良氏は広島に生まれたが、小学校のとき疎開して被爆を免れ、それが負い目で詩に書けず、ここ20年~30年直視出来るようになり、広島の体験を記録すべく詩作を継続しており、全国の知り合いの詩人たちに参加を呼びかけた。

鈴木比佐雄氏は詩誌「COAL SACK」(石炭袋)を主宰し、61号を数え、この詩集の出版社主である。コールサックは宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』のブラックホールや暗黒星雲を意味し、「ほんたうのさいはひ」(本当の幸い)の入り口を考え、湯川秀樹、小倉豊文などの作品を掲載しようと奔走した。

山本十四尾氏は鈴木氏の相談役で長津氏とも古くからの詩友である。原爆への関心を持ち全国の詩人たちに声をかけ、被爆する、しないにかかわらず原爆の認識を全国の詩人達に持ってもらうようまとめ、核廃絶の精神の持続を祈り刊行を実現した。三人のチームワークが結実した刊行が高く評価された。

【連絡先】株式会社コールサック社

【住所】東京都板橋区板橋2-63-4-509

【電話等】電話：03-5944-3258

FAX：03-5944-3238